

## 「龍谷の森」の鳥類相 (2012年度の調査から)

龍谷大学工学部環境ソリューション工学科

谷川 洋平

龍谷大学工学部准教授・里山学研究センター研究スタッフ

横田 岳人

### 1. はじめに

鳥類のそれぞれの種がどのような環境に棲息しどのような鳥類群集の種組成を示すのかに関しては図鑑などに記載されているが、地域を限定した場合、地域にそくした鳥類の分布状況を実際に観察によって明らかにすべきである。周辺の植生だけでなく、季節や年次によって確認できる鳥類が異なるので、地域の鳥類相を明らかにする上でも、長期的な観察が必要とされる。

「龍谷の森」では、これまでに鳥類相が報告されてきている(谷垣・雀部 2005; 堀本・吉井 2006; 鮫島・堀本 2007; 正野・横田 2009)。今回、2012年4月から2013年1月にかけて18回の鳥類観察を行ったので、出現した種を報告する。

### 2. 方法

調査は、滋賀県大津市瀬田大江町横谷にある龍谷大学瀬田学舎に隣接する「龍谷の森」で実施した。大津市公設市場から上田上堂町へ抜ける里道沿い(林内環境)と、瀬田学舎7号館裏から熊谷川沿いに堂町へ抜ける里道沿い(林縁環境)を中心に観察を行った。

重点的に観察するルートを長さ1 km程度で定め、ルート内に5つの観察ポイントを設置した。観察ポイントでは10分間立ち止まって、目視と鳴き声から種を判別し、個体数を推定し記録した。さえずり、巣材運びなどの繁殖にかかわる行動の有無や、採餌していた場合はその餌の種類なども記録した。観察には7倍の双眼鏡を用い、観察範囲はポイントの中心から周囲約100mとした。観察ポイントの間を歩いて移動する間も観察し、ポイントでの観察とは明らかに別個体の場合のみ記録した。ルートを往復し、復路では歩きながら、記録漏れがないかを確認した。

調査は2012年4月下旬から開始し、2013年1月上旬まで毎月それぞれの調査地で2回ずつ行った。同じ調査地での調査は約半月あけて行うようにした。調査は午前中に行い、日の出から遅くとも4時間以内に、それぞれのルートで調査を開始できるようにした。雨天の日は可能な限り避け、途中で雨が降り出した場合は、小雨の場合のみ調査を続行した。

### 3. 結果と考察

表1に棲息を確認した鳥類と確認頻度を示す。調査期間を通じて、林縁では9目26科57種、

林内では7目22科50種の鳥類を確認した。

出現種数と出現個体数の季節変化は、林縁では7月の前半から9月の後半まで、種数、個体数ともに他の時期より少なく、種数は8月の前半に13種、個体数は9月の後半に43羽と最小になった。種数は春と秋に多くなり、4月の後半に29種と最大になっていたが、個体数は春と秋の他に初夏にも多くなり、10月の前半に104羽と最大になった。秋の終わりから冬にかけては、種数も個体数も減少したが、1月の前半には少しだけ増加した。一方、林内では夏の終わりから秋の初めにかけて、種数、個体数ともに少なく、9月の前半に最小（7種、32羽）となった。4月の後半、7月の前半、11月の前半の3回が、他の時期と比べて種数、個体数が特に多くなり、種数は4月の後半に25種、個体数は7月の前半に104羽とそれぞれ最大になった。秋の終わりから冬にかけて種数は減少していたが、個体数は12月の前半に少なくなったものの、12月の後半には少し増加し、1月の前半は12月の後半と同じくらいであった。

林縁、林内とも、夏の終わりから秋の初めのいずれかの調査日で個体数や種数が最小となっていた。この時期は、多くの鳥で繁殖期が終了し、換羽期に入るため、鳥の動きが不活発になったためではないかと思われる。春や秋の種数や個体数が増加するのは、この時期が鳥の渡りの時期であったため、移動してきた種や個体が記録されることに加え、この時期が繁殖期で、巣立った幼鳥が加わったこと、さえずったり餌を探しまわったり鳥の動きが活発で、観察されやすかったことが考えられる。

全ての種の総出現個体数のうち、各種の総出現個体数が占める割合を優占度とする。優占度をみると、林縁では、メジロ、ヒヨドリ、エナガ、ホオジロ、ヤマガラ、シジュウカラ、ハシブトガラス、スズメ、カワラヒワ、コゲラ、ウグイス、キジバト、ハシボソガラス、ツバメ、ヒガラという順で優占度が高かった。ここでは上位5種のメジロ、ヒヨドリ、エナガ、ホオジロ、ヤマガラで全体の50%を占めていた。林内では、メジロ、エナガ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ、キビタキ、カワラヒワ、スズメ、ククイタダキ、ツバメ、ウグイス、イカル、ヒガラという順であった。上位3種のメジロ、ヒヨドリ、エナガで全体の48%を占めていた。

全18回の調査のうち、当該種が確認された割合を出現率とする。出現率を見ると、林縁では、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ホオジロが100%であった。コゲラ、ウグイス、ヤマガラ、ハシボソガラスも8割以上と出現率は高く、カワラヒワ、スズメ、エナガ、ハクセキレイ、キジバト、ツバメは5割以上とやや高めであった。出現率25%以上の種の多くが留鳥であり、夏鳥はツバメとキビタキのみ、冬鳥はツグミ、ククイタダキ、アオジの3種であった。林内では、コゲラ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロが出現率100%であった。エナガも8割以上と出現率は高く、ウグイス、ホオジロ、キビタキ、スズメ、ツバメ、カワラヒワ、イカルは5割以上とやや高めであった。出現率25%以上の種の多くが留鳥であり、夏鳥はキビタキとツバメのみ、冬鳥はククイタダキとシロハラのみであった。

林縁環境では、メジロ、ヒヨドリ、エナガが多く、ホオジロも比較的多いといえる。これらの種ほど優占度は高くないが、出現率の高いハシブトガラス、シジュウカラ、コゲラ、ウグイス、ヤマガラ、ハシボソガラスは頻繁に見られる鳥、カワラヒワ、スズメ、ハクセキレイ、キジバト、ツバメも比較的高い頻度で見られる鳥といえる。スズメのような人の住む周辺で見られる鳥や、ツバメやハクセキレイのような開けた場所の鳥がいる一方で、エナガ、ウグイス、

ヤマガラ、コゲラ、シジュウカラなど林縁から森林にすむような鳥が多く見られ、開けた環境と樹木が茂った環境とが混じり合った林縁環境の特徴が現れている。

林内環境では、メジロ、エナガ、ヒヨドリが特に多く、ハシブトガラス、シジュウカラも比較的多いといえる。コゲラ、ヤマガラもある程度多く、高い頻度で見られる鳥である。優占度は高くないものの、ウグイス、ホオジロ、キビタキ、スズメ、ツバメ、カワラヒワ、イカルも比較的高い頻度で見られる鳥といえる。ハシブトガラスは、本来は森林に生息する鳥であり（真木・大西 2000）、キビタキも落葉広葉樹林や針広混交林に生息する鳥であるため（桜井 1984）、これらの種の優占度や出現率が林縁環境より高くなったのは、林内環境の特徴が現れたものと思われる。

両方の環境で、スズメやツバメはある程度高い頻度で見られた。これらの種は人家周辺にすむ鳥である。営巣場所は建物などであっても、森林（ツバメの場合は森林の上空）も餌場としては重要なかもしれない。また、ヒヨドリはどの調査地でも優占種となり、ハシブトガラスはどの調査地でも高い頻度で観察された。これらの種は利用できる環境の幅が広い種である。エナガ、メジロも「龍谷の森」で優占種となっており、ヤマガラやシジュウカラ、コゲラも高い頻度で観察されるので、これらの種は、人との距離のある程度離れた林縁から森林内で、ごく普通に見られる種といえる。

#### 4. 引用文献

- 堀本尚宏、吉井崇行（2006）『龍谷の森』における冬期の鳥類相. 龍谷大学里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター 2005年度年次報告書：300-308
- 真木広造、大西敏一（2000）「日本の野鳥590」株式会社平凡社
- 日本鳥学会（編）（2012）「日本鳥類目録改訂第7版」日本鳥学会
- 桜井良三（編）（1984）「決定版生物大図鑑鳥類」株式会社世界文化社
- 鮫島弘光、堀本尚宏（2007）『龍谷の森』における冬季の鳥類相. 龍谷大学里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター 2006年度年次報告書：414-451
- 正野和馬、横田岳人（2009）『龍谷の森』の鳥類相と植生の関係. 龍谷大学里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター 2008年度年次報告書：295-305
- 谷垣岳人、雀部正毅（2005）『龍谷の森』における鳥類相調査～中間報告～. 龍谷大学里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター 2004年度年次報告書：207-209

表1 棲息を確認した鳥類と確認頻度。分類は日本鳥学会(2012)による。  
生息確認回数は、◎8割以上、○5-8割、□2-5割、△2割以下の4段階に区分した。

目名	科名	種名	学名	林縁	林内	備考	
キジ目	キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	△	□		
カモ目	カモ科	カルガモ	<i>Anas zonothyncha</i>	△	△	上空	
		キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	□		
		アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	△	△		
カツオドリ目	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	△	△	上空	
バリカン目	サギ科	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	△		上空	
		ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	△		上空	
タカ目	タカ科	トビ	<i>Milvus migrans</i>	△	□	上空	
		ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	△		上空	
		ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	△		上空	
		オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	△	△		
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	△		上空	
キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	◎	◎		
		アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	□	□		
スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	△		上空	
	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	□	△		
	カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	□	△		
		ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	◎	□		
		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	◎	◎		
	キクイタダキ科	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	□	□		
	シジュウカラ科	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	◎	◎		
		ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	□	□		
		シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	◎	◎		
	ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	△		上空	
	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○	○	上空	
		コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	△	△	上空	
		イワツバメ	<i>Delichon dasyptus</i>	△	△	上空	
		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	◎	◎	
	ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	◎	○		
		ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	△	△		
	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○	◎		
	ムシクイ科	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	△	△		
		エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	△			
		センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	△			
メジロ科		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	◎	◎		
ムクドリ科	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	□	△			
スズメ目	ヒタキ科	シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	□	□		
		アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	△			
		ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	△	△		
		ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	△	□		
		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	△			
		イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	△			
		エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	△	△		
		コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	△			
		キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	□	○		
		オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	△	△		
		スズメ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○	

表 1 (続き)

目名	科名	種名	学名	林縁	林内	備考
	セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	□	△	
		ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○	△	
		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	□		
		ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	□	□	
	アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	△	△	
		カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○	○	
		マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	△	△	
		ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	△		
		ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	□	△	
		シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	□		
		イカル	<i>Eophona personata</i>	□	○	
	ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	◎	○	
		カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	△	△	
		アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	□	□	
		クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>		△	